

HPVワクチンのキャッチアップ接種の 一大ムーブメントを巻き起こしましょう！

本年9月末までに開始なら無料です!!

JCHO徳山中央病院 健康管理センター長 内田 正志



1. 子宮頸がんの大部分 (約90%)はヒトパピ ローマウイルスが原因 です！

子宮頸がんは年間約10,000人が発症し、約3,000人の女性が死亡する恐ろしい病気です。その原因は、性交渉によって誰もが感染しうるヒトパピローマウイルス(HPV)です。近年は発症の低年齢化が言われており、子育て中の母親が亡くなったり(マザーキラー)、子宮を失うことが少なくありません。HPVには100種類以上ありますが、子宮頸がんの発症に関係するのは15種類くらいで、中でも16型、18型が最重要です。HPVワクチンはHPVの感染を防止することによって、子宮頸がんを予防するためのワクチンで、9価ワクチンは約90%を予防できるとされています。

2. 行政と医療機関がタッグを組んでキャッチアップ 接種の一大キャンペーンを展開しましょう！

約10年間、積極的勧奨が控えられていた期間(1997年4月2日から2008年4月1日)に生まれた方の接種率は激減(80%→1%)しました。この期間に接種をしていない女性にHPVワクチン接種を是非とも受けてもらうために、国は2022年(令和4年)4月1日から2025年(令和7年)3月31日までの3年間を無料で接種できるキャッチアップ期間として取り組んでいます。すでに2年間が経過しましたが、まだまだ不十分です。残りはあと1年です。HPVワクチンは3回接種(0, 2, 6か月)が原則ですの

で、無料(有料だと約10万円)で接種を完了するためには、少なくとも9月末までに1回目を接種する必要があります。

行政から未接種者に接種勧奨の知らせが送られますので、接種医療機関には問い合わせが増加すると予想されます。問い合わせがあった場合は積極的に接種をお願いしたいと思います。

3. 医師および医療関係者の声掛けが重要です！

徳山中央病院では、3月にキャッチアップ対象者のHPVワクチン接種の調査を行いました(図1)。24歳以上は80%を超える接種率があり、これは積極的勧奨中止前の定期接種が大部分です。

23歳以下になると急激に接種率が低下してきます。したがって、キャッチアップ接種の主な対象者は23歳~17歳の女性ということになります。当院では今後啓発を行い、看護部はじめ各部署の責任者の協力を得てキャッチアップ接種を進め、キャッチアップ世代の接種率を65%から80%以上にもっていきたいと考えています。看護部からは新人研修の中で声掛けをいただき、5月10日に15名に1回目を接種しました。

徳山医師会でも多くの医療機関がHPVワクチン接種に手を上げていただいています。しかし、じっと待っていてもなかなか接種希望者は現れません。医師および医療関係者の接種者及び保護者への声掛けが重要です。私は慢性疾患でフォロー中の患者さんにはすべて声掛けし、ほとんどの患者さんがHPVワクチン接種をしてくれました。特に副反応はありませんでした。まずは各病院・医院の職員でキャッチアップ接種対象者の調査を行い、未接種者には接

	26歳	25歳	24歳	23歳	22歳	21歳	20歳	計
2023年度 までの入職者	13/14 93%	22/25 88%	31/39 79%	21/36 58%	14/25 56%	7/18 39%		108/157 69%
2024年度 入職者	3/3 100%	3/3 100%	6/7 86%		6/14 43%	7/15 47%	1/6 17%	26/48 54%
全体	16/17 94%	25/28 89%	37/46 80%	21/36 58%	20/39 51%	14/33 42%	1/6 17%	134/205 65%

(JOHO徳山中央病院健康管理センター調べ：2024年3月)

図1 徳山中央病院でのHPVワクチンの年齢別接種率(接種者/総数)

種の勧奨を行っていただきたいと思います。厚生労働省やワクチンメーカーの資料を参考にされるとよいでしょう。次に、キャッチアップ接種や定期接種の対象年齢の皆さんをお持ちの職員に、HPVワクチン接種の重要性を啓発いただきたいと思います(図2)。テレビや新聞でもHPVワクチン接種推進のCMがなされています。行政からの通知と医療関係者の声掛けと相まって、社会全体でHPVワクチン接種の雰囲気が高まってくれることを期待しています。

4. 今後の展開!

本年9月まで勝負です。できるだけ未接種者に接種をしたいところですが、接種に来てくれないことには始まりません。まずは医療機関の職員から子宮頸がんを無くすというメッセージを発することが重要です。今後は周南公立大学、徳山看護学校、高

校、徳山市役所、大企業などにも呼びかけたいと考えています。

子宮頸がん予防の両輪は、HPVワクチン接種と子宮頸がんの予防検診です。WHOは2050年までに子宮頸がんをなくすという目標のもと、ワクチン接種率と検診率をいずれも80%以上にすることを提唱しています。わが国の検診受診率は50%にも達しておらず、ワクチン接種率も低く、世界的な発症率の低下の流れに逆行して子宮頸がんが増加するという不名誉な状況です。キャッチアップ接種をその後の定期接種に繋げていきましょう!そして、20歳を過ぎたら、2年に一度の検診を受けるのが当たり前という雰囲気を作っていきましょう。近いうちに検診にHPV検査が導入され、HPV陰性の方は5年に一度の検診でよくなるようです。

子宮頸がん予防に向けて、HPVワクチン接種の一大ムーブメントを巻き起こしましょう!

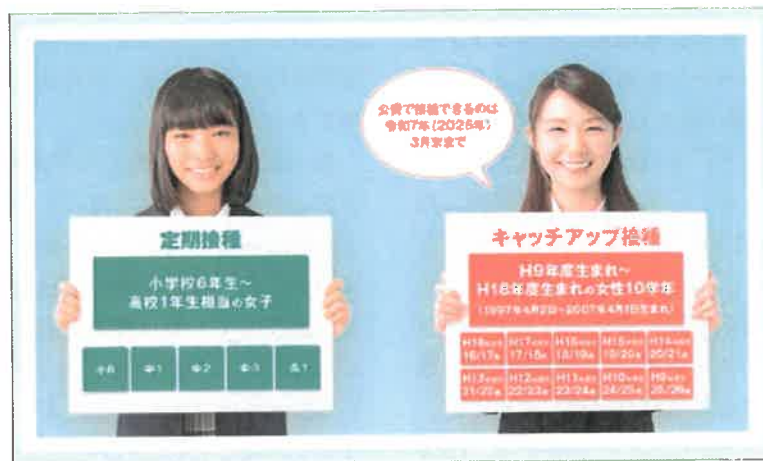


図2 HPVワクチン(子宮頸がん予防)の接種を進めましょう!